



木下健一

市の高齢化が進む中 施設整備の状況は

Q福祉 市の高齢者数は2万9千人を超え、高齢化率も27%となり4人に1人が高齢者である。全国では特別養護老人ホームに入所できないと問題になっているが、市の福祉施設の整備状況と次の介護保険事業計画の方向性は。

A部長 本年度、市内に60床の特別養護老人ホーム2施設が新規に整備され、人口100人当たりの床数は県平均を上回っている。次期計画では運営協議会の意見を尊重し、市民の声を反映した計画づくりに努める。

シルバー人材センターの 現状は

Q高齢者 津山市のシルバー人

材センターは平成元年に設立され、順調に業績を伸ばしてきた。設立当初は行政コストを引き下げる役割を担ってきたと思うが現場では戸惑いもあると聞く。現状はどうか。

A部長 津山市ではシルバー人材センターの契約件数の約4割に当たる学校管理、公園管理などの業務委託を行っている。今後も単なる運営補助ではなく、国の企画提案型事業などの取り組み状況に合わせた支援も考えており、具体的な提案も受けている。



シルバー人材センター

普通教室への エアコン設置は

Q教育 耐震化率100%を達成した後の教育環境の整備は、小中学校の普通教室へのエアコン設置では。プレハブ校舎にはエアコンがあり、新しい校舎にエアコンがないのは本末転倒。教育委員会内の議論は。

A部長 学校の規模に応じた空調機器の選定や温度上昇の抑制策、遠隔管理の適正化などの検討をしている。状況を注視・把握しながら経費や技術面などの調査研究をあらゆる角度から行い、より良い教育環境の実現に向けて努力を続けていく。

人口増加策の切り札に 若者への支援は

Q定住 人口増加に対する根源



小椋多

的な対策とは、若者達が結婚し子どもを産み育てやすい環境を整備すること。若者達のライフイベントごとに対応する経済的支援策を創設できないか。

A部長 少子化対策は重要な課題であり、若い世代の方々が出産・子育て・就労など子育てしやすく住みやすい環境を整え、住み続けてもらうまちづくりが必要。課題やニーズをしっかりと把握し第5次総合計画に反映させ、具体的な施策を盛り込んでいきたい。



津山で幸せな生活ができるために